

砂川学園の通学について

公正会・
市民の声連合
小黒 弘

問 4月に砂川学園が開校しました。登下校時の通学手段について伺います。

答 登下校時の通学状況については、全児童生徒約780人のうち、徒歩による通学者は約380人、スクー
ルバスの利用者は約250人、自転車
による通学者は約150人です。

問 徒歩の場合における保護者の車での送迎状況で、冬期間は堆雪により今以上に厳しい状況が生じると考えますが、その対応について伺います。

答 道道については、早い段階から北海道建設管理部と相談をして早目の除雪、市道については早目の除雪と交差点の確保を関係機関と協議をしていきます。

問 5、6年生の自転車通学は危険な状況が見られますが、スクールバスに乗車することは出来ないのか伺います。

答 5、6年生の自転車通学は2km以上、3km未満の児童を対象に許可していますが、スクールバス

は定員に近い乗車の状況で難しいです。交通安全指導を行い、事故が起これないような対応をします。

問 通学路について、今後、児童生徒の安心・安全・命を守るため通学路の再検証と通学路の指定を行うべきと考えますが伺います。

答 5月には滝川警察署と合同で学校周辺の交通量現地調査も行っており、状況によつては年度途中でも通学路の見直しを行うこととしていきます。今後も登下校時の安全指導の徹底を図り、児童生徒の安全を見守る体制の構築に努めていきます。



砂川学園前の危険な交差点

砂川学園の学校

運営について

創生会
石田 健太

問 今年度砂川学園が開校し、教育行政執行方針には、9年間の系統性ある小中一貫教育の充実、子どもたちの主体性の育成、地域・保護者との連携など、素晴らしい理念が掲げられています。

これらの理念が日常の学校生活において最も具体的に現れるものの一つが、子どもたちの行動指針となる「学校のきまり」であると考えますが、新しい「学校のきまり」の策定経緯と発達段階への配慮について伺います。

答 教職員による議論を経て、9年間の連続性を重視した全校統一のきまりを策定しました。ファーストステージでは集団生活の規範意識を育み、セカンド・サードステージではきまりの策定理由や意義について考えさせるような指導へと高めていきます。

問 策定に対する子どもたち・保護者の参画について伺います。

答 策定は教職員主体でしたが、保護者説明会等で意見を聴取しま

した。今後は児童生徒会等での議論を促し、見直しが必要な場合は児童生徒の意見を聴取する機会を設け、保護者へはアプリの活用等により感じていることを表現しやすい環境を構築していきます。

問 時代や社会環境の変化に応じた見直しについて伺います。

答 スポーツドリンク等の持参や教科書等をロッカーに置いていくことなどに柔軟に対応しています。実効的に機能していくためには、教職員・保護者・児童生徒三者のきまりへの共通理解が重要であり、一貫性のある指導に努めます。



砂川市立砂川学園

公園トイレの保守・修繕、更新について

創生会

伊藤 俊喜

問 公園トイレでは今の時代にそぐわない、入口の扉がなく内部が見えてしまう古いタイプのトイレも継続して利用されています。

トイレの保守・修繕は計画通りに進んでいるのか、既存トイレを更新する考えがあるのか伺います。

答 公園施設長寿命化計画を策定した平成27年度から現在に至るまで、使用頻度も多く危険な公園遊具など緊急性を要するものを中心に施設の改修・修繕を順次進めています。既存トイレの更新計画については必要に応じて更新を検討します。

問 総合体育館近くの日の出公園の男性トイレでは私が2年前の9月に撮影した写真で、小便器5つ・大便器2つのうち、小便器2つ・大便器が1つ利用不可となっていました。窓ガラスも大きく破損してテープで止めている状態です。今月に撮影した同じトイレの写真では小便器3つ・大便器1つが利用不可で窓も修理されてい

い状態です。

また、多目的トイレも2年前からずっと使えません。どうしてこのように放置している状態が続いているのか伺います。

答 危険な公園遊具など緊急性を要するものから順次、修繕を進めています。トイレの修理については遅れている状況です。指摘のトイレについては本年度修理が必要と認識しており、業者に依頼しています。修繕しても老朽化による故障やいたずらも多く、直してもすぐに壊れ、正常な状態を維持することに苦慮しています。



生涯学習社会実現に向けての取組みについて

創生会

山下 克己

問 「人生100年時代」「超スマート社会」など社会が大きく転換していく中で、高齢者を含め全ての市民が地域において世代を超え互いに交流しながら地域や暮らし、各々の生きがいと共に創り高め合う「地域共生社会」を実現するためにも、いつでも自由に学習機会を選択し学ぶことができ、その成果が適切に評価される「生涯学習社会」の実現は基本となるものであり、その重要性は一層高まっていると考えます。

刻々と変化し新たな課題が次々と生まれる現代社会において、生涯学習の可能性を伝え理解・実感してもらい、多くの市民に実践してもらうことがこれからの砂川市にとって重要と考えますが、生涯学習を通じたまちづくりを今後どのように進めていこうと考えているのか伺います。

答 本市では、市民一人ひとりがライフステージやニーズに応じて学び、その成果を個人の生活や地

域での活動に活かせるよう、取り組みを推進することとしています。

中間年市民意識調査の結果からは、生涯学習がまちづくりと十分に結びつけて認識されていない面も浮かび上がりますので、学びの機会や学習活動に関する情報発信を通じて、市民の皆様の生涯学習に対する関心を高めていくことが課題であると受け止めています。

今後とも、関係部局や関係団体との連携のもと、市民の主體的な学びを支える環境の充実に努め、生涯学習社会の実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

